

小学校統合プラン説明会会議録

と き 平成23年7月29日午後7時30分～午後8時50分

ところ 下郷地区公民館

出席者 地区民男性14人、女性8人 計22名

石前委員長・高塚委員・進委員・前畑委員・永田教育長・生田課長・藤村課長
浅田補佐・谷本補佐・高力係長

開会 生田課長

あいさつ 石前委員長

統合プラン説明 永田教育長

資料により説明させていただき、皆様とともにこの問題を考えていきたいと思う。

別紙資料により説明。

財政推計について生田課長説明

質問・意見交換

○ 今の説明は支出の方であって、歳出、歳入を併せて検討してもらうことが大事だと思う。歳出で大きいのは、複式解消で1人約5百万を県に出して解消を図っている。歳入で考えると古布庄小学校が東伯小学校と統合になれば、約1千5百万普通交付税が少なくなる。算定は小学校数、学級数、児童数いくらという具合に積み上げ、これに税収を差し引いて(約60数%)交付税が交付される。3校が無くなると4千5百万円収入が少なくなる。闇雲に統廃合すると自主的な財源を返上することになる。子ども達が少なくなって複式になった時の教育的効果はどうか、地域に学校がなくなるのはどうか、というようなことを併せて検討していかないといけないと思っている。

○ 今日が地区説明会7地区目で、他でもいろんな意見が出たかと思う。この説明会が終わって今後の流れ、最終決定はどのようになるか。

● 今地区回りをされていて、8月3日で地区説明会が一巡する。それが終わって今度は9月頃から小学校単位で、小学校、保育園、幼稚園の保護者対象に説明会を開催し、いろんな意見をもらい、子ども達の望ましい教育環境をつくっていかれたらと思っている。26年度をめざすと後2年半というところで、最終的に方針等は教育委員会で決定するが、その設置条例提案は町長であり、議会の議決が必要である。説明会等で合意形成を図りながら、26年度統合をめざしている。

○ 答申で32年度に中学校校区で1校ずつというのがあったが、そのことの検討はどうか。

● 現在児童が988人おり、東伯中校区5百数十名、赤碕中校区400名くらいの規模の学校になる。学校はまだ新しいということ、あまり大きな学校というのもどうかというこ

とで、教育委員会は今ある施設を活用して、ある程度の集団ということで、統合プラン提案した。この統合でしばらくは複式等の解消はできていると思っている。

○ 個人的には統合は賛成したくないというところがある。今小学校と地域の高齢者の交流をいろんな学校でやっていて、統合すればそういう交流が難しくなってくる。そういうことが地域にある学校の意味があると思う。それと成美小学校は普通教室が狭いので3校分は厳しいのではないかと。また1校ずつというのは当分ないということで安心したが、そういう学校は9年間同じ児童・生徒で過ごすので、高校に入った時に人間関係で躓くことがあるということを知った。私はそれぞれの地域に学校が残ればよいと思う。

● 成美小が建築された当時の人数と統合になったときの人数は同じくらいで、現在の学校編成基準で行けば普通教室はある。教室の面積も赤碕小、安田小、成美小は同じである。

○ 30人学級になると普通教室が足りないのでは。

● 今、特別支援学級で使用している1部屋は普通教室と同じ大きさで、その時の支援教室によっては改修が必要になる。

○ 私の提言ですが、安田小学校は赤碕小学校と統合してはどうか。理由としては、以前安田小学校は統合するなら赤碕小学校ということを知ったことがある。それと施設のことも余裕ができると思う。

○ 今回の統合プランを見て、根本的に教育委員会と親だけで話を進めている気がして、子どもは統合問題をどう思っているのか。古布庄小学校の子どもが東伯小学校と一緒にいるこの時に、子ども達にアンケートをとる考えはあるのか。

● 子ども達の気持ちはどうだということは、聞いたことがないのでわからない。ただ今現実問題として考えると赤碕中校区ではスポーツ少年団が組めないということで、合同で野球のチームを組んでいる。また、5年生は宿泊訓練、6年生は修学旅行を中学校校区で行っていて、交流ということはもうすでに始まっている。

○ 子供に聞いたことがある。もしかしたら古布庄小学校と合併するかもしれないよということを知って話した。どう思ったかわからないが、子どもの気持ちを抜きにして進んでいくのはどうなのかすごく気になる。統合に対して特に賛成、反対でもないが、長い目で見たらいいのかという気がする。子ども達にもそういう話をしていくべきでないと感じた。

● 準備委員会を本当に進めていけば、子どもの気持ちや保護者の気持ちも含めて、何も知らないのに、はいどうぞということにはならない。統合までの2年間に、子ども・PTAが交流をして、仲間意識をつくっていかないといけない。実際、子ども達もそういう気持ちにならないだろうし、統合してからギクシャクすると思う。やっぱり統合する前にこのあたりも学校同士どう関わっていくか、これも今言われる要件になってくる。実際統合されている学校も、そのあたりがしっかり練られていると思う。

○ 私の孫が平成33年ごろに卒業するが、そのころになると年少人口が約30%減るといわれている。町も人口が増える対策をもっと考えないといけない。

● 町が一体となってやっついていかないといけない課題である。この資料は「県内の他市町村学校統合の状況を一覧表で説明」。その理由は、児童数の減少、望ましい環境、活動の保障、互いに磨きあう生活どうするか、という理由が多くなっている。各市町村取り組んでいるが、なかなか成果の出ない課題である。今後もより一層、知恵を出し合い取り組んでいきたい。

○ 下郷小学校と上郷小学校が統合し、東伯小学校ができ私は第1回の卒業生で、その頃は、同盟休校や、議員辞職等大変な経過をへながら合併された。そして校舎も両地区にまたがる要害山に建てられた。古布庄地区の説明会に行ったとき、地域がこのまま寂れて大変なことになるという議論があった。町が地域と一体となって地域振興を図る時に、学校があったほうがいいかどうか、そういうことを真剣に考える。いわばピンチをチャンスにする発想で、小学校の統合問題を考えるのほうがいいのではないかという発言した。

議会でもいろいろ提案し、地域の産業、農業を守ることに努力しているが、住民の皆さんもどんどんアイデアを出していただき、それを行政もしっかり応援をする。その中に学校をどう位置づけるかというようなことだと思う。

学校が大きくなると、視角が多く子どもがよく見えない。学級経営がうまくできなにかいろいろあるようで。琴浦町の今の学校編成方針は1学年2クラスということではなく、このプランは時代背景を加味した内容でないかと思っている。

子ども達をしっかり育てるために、力を合わせていく必要があると思っている。そういう観点でこの統合問題を契機にして、地域、地域づくりを考える、チャンスに転化するのがいいと思う。

○ 子どもの流れを見ているとだんだん減ってくる、子どもは国の宝とっていい。片方地域では年寄りがだんだん増えてくる。その中で統合をどうするか、地域との繋がりこういうものをどうしていくか。年寄りばかり残されて、地域の活性化が図れない。やはり高齢者がいたり、子どもがいたりで地域が成り立っている。統合ということになればそのあたりを含めて検討してもらいたいと思う。

司会 他にご意見はありませんか。ほんとうに今日は有難うございました。今後小学校単位での説明会を開催し、その中でまたご意見等をいただいて進めていきたい。以上を持ちまして小学校統合プランの説明会を終わります。

午後8時50分閉会